

奈良医大附属病院を受診された患者さまへ

当科では下記の臨床研究を実施しております。

病理診断、細胞診断のために組織あるいは細胞を採取された患者様の検体から作製されたパラフィンブロックやプレパラート等（病理検体）を、診断目的に用いるだけではなく、医学教育や医学研究に使用させて頂くことがあります。

病理検体を用いての研究は、すでに採取された検体を用いて行われますので、患者様ご本人の診療内容には影響を与えることはありません。個人情報ならびに患者様情報は、外部から遮断された（インターネットに接続していない）コンピューターで入力を行います。属性を消去し、研究番号に転化することで、完全に匿名化を行います。研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、個人の特定が可能な情報は削除されます。

ご自身の検体の使用をお断りになった場合でも、診療上の不利益にはなりません。研究に関して不明な点については、病理診断学までお問い合わせ下さい。

研究課題名	新たな免疫染色抗体ならびに miRNA マーカーを用いた中皮腫診断法の開発
研究責任者	大林千穂（病理部・病理診断学講座 教授）
共同研究者	藤井智美（病理部・病理診断学講座 講師） 笠井孝彦（独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター・病理診断科） 武田麻衣子（独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター・病理診断科） 鳥井郁子（独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター・病理診断科） 飯塚 徳重（市立岸和田市民病院・病理診断科）
本研究の目的	現在、中皮腫の診断は主に形態学的診断と免疫組織化学染色で行われていますが、分化度が低い場合など中皮マーカーが陽性とならず、診断に苦慮することがあります。HEG1 は中皮腫に特異度が高く、診断に加えることにより診断率が向上することが期待されます。さらに近年有用性の高いと報告されている HEG1 の発現に関わる microRNA をモニタリングすることでさらに診断精度をあげられることが期待できます。 本研究では、診断が行われた後のパラフィン包埋組織検体を用いて HEG1 の発現を免疫染色にて検討し、他の中皮腫のマーカーの感度と比較します。一方で、FFPE 組織検体ならびに液状検体 LBC

	(Liquid-Based Cytology) より RNA を抽出し、HEG1 の発現に関連した microRNA および関連分子の発現量および検出感度を検討します。
該当期間	1995 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日
研究期間	倫理審査委員会承認後～2019 年 3 月 31 日
対象となる患者さま	上記期間内に奈良医大附属病院にて悪性中皮腫と診断された患者様
取り扱うデータ	年齢、性別、画像所見、臨床・病理診断
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。 患者さまの個人情報は病理診断学講座の大林千穂が厳重に管理します。
利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	相談窓口：奈良県立医科大学病理診断学講座 担当者：大林 千穂（教授） 電話：0744-22-3051 E mail：ohbayashi@naramed-u.ac.jp